

2024年4月26日

デジタル庁

AI時代における自動運転車の社会的ルールの在り方検討

サブワーキンググループ 御中

関東交通犯罪遺族の会（通称：あいの会）

意見書

- 1 オートマ車が普及するようになってから高齢者によるペダルの踏み間違い事故が起きたり、認知症が進んで瞬時の判断や動作ができなくなったりして、高齢者による事故が絶えません。そうしたとき、いつも被害を受けるのは、交通弱者であったりルールを守っている善良な市民であったりします。

でも、だからと言って、高齢者に自主的な免許返納を求める呼びかけだけでは事故は減りません。「地方」では、移動する手段がとても不足しているからです。都市部であれば、地下鉄や電車が網の目に張り巡らされ、バスも頻繁に出ています。でも、地方では、地下鉄・電車がなかったり、バスも1日に数本しか走ってなかったりするところが多くあります。コンビニに行くだけでも、歩けば1時間かかることもあり、都会では考えられないような環境です。また、農業や林業などに携わっている方々であれば、車を運転できないことは死活問題です。自動運転は、これらの深刻な問題を解決してくれる足に代わる「希望の星」です。

さらには、トラックやバス業界、タクシーなどの人手不足も解決してくれるでしょうから、国民全体の経済にとっても有益です。

そして、何より、交通事故は劇的に減ります。もっとも大切な人の命を沢山、救ってくれます。交通事故の被害者にとっても、国民全体にとっても、自動運転車に一番の期待をしているところです。

ですから、自動運転はぜひとも推し進めてください。

2 次に、自動運転であっても、事故は、完全には無くならない前提で制度を検討していくべきです。

では、それを前提に、事故を限りなくゼロに近づけるための対策として、どんなものがあるでしょうか。

一つは、自動運転車には、外部エアバックの装着を義務づけるというのも方法としてあり得ると思います。

二つ目には、より根本的な対策が必要です。道路の環境整備です。たとえば、交差点では歩車分離を徹底する、住宅街の制限速度を引き下げる、ほとんどの車が自動運転化されるまでの移行期は、都市部においては自動運転車の専用レーンを作る、標識や信号機をもっと分かりやすくするなどがあり得ます。

3 最後にもう一つ重要なことを申し上げます。交通事故をゼロに近づけるための、「大前提」のお話しです。

法律の素人の私達がこのようなことを皆さんに申し上げるのは釈迦に説法かとは思いますが、交通犯罪の遺族にとっては、とても大事なことですからあえて申し上げます。

たとえ、自動運転であっても、それを作る人がきちんと法律を学んで、交通ルールをしっかりと守るようなシステムを作ってください。

今の車は人が運転します。人はどうしてもミスをします。教習所で学んだ交通ルールを忘れていたり、覚えていてもいつの間にか守らなくなったりするからです。だから事故はなくなりません。

では、自動運転の場合はどうでしょうか。自動運転は人が運転しているわ

けではありません。

では、機械が、勝手に運転しているのでしょうか？それとも、神様が運転してくださっているのでしょうか？どちらも違います。自動運転するようなシステムを、人間がプログラミングし、「人間が機械に運転させている」のです。もし、自動運転のプログラムを作るときに、それを作る人間が交通ルールを知らなかったらどうなるのでしょうか？それによってできた自動運転の車は、交通ルールを守らないで公道を走ることになってしまいます。そうなれば、いつか大きな事故が起き、悲しむ被害者が新たに生まれます。事故を限りなくするための自動運転で、逆に事故が減らないことになります。

また、そうした事故が起きたとき、交通ルールを守れないような車両を作った技術者やメーカーが一切刑事罰を受けなくなったら、国民は、納得できません。そればかりか、そんな自動運転は誰も信頼しなくなって、怖くて乗らなくなるでしょう。結果、自動運転は普及するどころか衰退します。

では、その「交通ルール」とは何のことでしょうか？私達に身近な「道路交通法」です。ですから、メーカーの人達は、道路交通法をきちんと学び、ルールをしっかりと守れるようなシステムをプログラミングして、自動運転車を作ってください。そうやって作られた車なら、事故は限りなくゼロに近づきます。

道交法を守っても事故が起きたのであれば、それは人間が運転している場合でも事故が起きるということですから、刑事責任を問われるようなことはない、あいの会の顧問の先生から聞いています。